

JACLaP WIRE No.79 (2005年2月2日発行)

本メールは日本臨床検査専門医会の電子メール新聞 JACLaP WIRE No.79 です。

=====
目次
=====

- 【お知らせ-1】事務局からのお知らせ
会員動向(2005年1月28日現在数678名, 専門医490名)
- 【お知らせ-2】第15回日本臨床検査専門医会春季大会について
- 【お知らせ-3】Joint Meeting of the International and Eighth Chinese
Innovative Teaching of Diagnosis and Standardization of Clinical Laboratory
Diagnosisについて
- 【お知らせ-4】平成17年 第一回常任幹事会議事録
- 【WHO トピックス】
- 【1】津波災害を受けた東南アジアに対し WHO は病気の流行を防ぐため 660 万米ドルの
必要性をアピール<Press January 2005 WHO-181>
- 【Q & A】輸血検査におけるゲルカラム法
- 【Q & A】尿沈渣における卵円形脂肪体と脂肪顆粒細胞の違いについて
- 【MTJ (The Medical & Test Journal) 1月11日号から】
- 【MTJ (The Medical & Test Journal) 1月21日号から】

=====
JACLaP WIRE
=====

- 【お知らせ-1】事務局からのお知らせ
会員動向(2005年1月28日現在数678名, 専門医490名)

新入会員

- 濱中裕一郎 先生 : 山口大学医学部臨床検査医学
- 真里谷 靖 先生 : 青森県立中央病院臨床検査部
- 中谷 中 先生 : 三重大学医学部附属病院 中央検査部
- 石田雄介 先生 : 滝川市立病院

所属・その他変更

- 加藤裕也 先生 : 旧 三重大学医学部附属病院病理部
新 独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター 臨床検査科
- 猪川嗣朗 先生 : 旧 鳥取大学医学部臨床検査医学
新 藤井政雄記念病院 検査部
- 大林光念 先生 : 旧 新潟大学医学部附属病院検査部
新 大分大学医学部附属病院第3内科

下村登規夫先生：旧 鳥取大学医学部臨床検査医学
新 独立行政法人国立病院機構 さいがた病院
金井信一郎先生：旧 信州大学附属病院中央検査部
新 飯田市立病院臨床病理科
山中正二 先生：旧 横浜市立大学医学部病理学第二講座
新 横浜市立大学医学部附属病院病理
鈴木秀郎 先生：旧 紀南病院 外科・検査病理
新 山本総合病院 外科・検査科
新井盛夫 先生：旧 東京医科大学臨床検査医学講座
新 ノボノルディック ファーマ株式会社

教育セミナー・GLM 教育セミナーに関連したお知らせ

すでに会員の先生方には教育セミナーの年間予定と、参加申込書をお届けいたしました。参加を希望される先生は、申し込み用紙に参加を希望される教育セミナーにマークを記入し、事務局まで FAX でお届けください。もし参加希望者の数が施設の許容範囲を超えた場合には、本年度専門医受験者予定の方の参加を優先させていただきますことをご容赦ください。

今年度会費振り込みのお願い

今年度会費の振り込みをお願いいたします。

会費の振り込み用紙は、教育セミナーの申込用紙とともに同封してあります。

すでに先生のお名前が記入されていますので、所属、住所、E-mail address の変更がありましたら通信欄に記入をお願い致します。

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-2】第15回日本臨床検査専門医会春季大会について

下記の要領で開催されます。奮ってご参加下さい。

日時：平成17年4月9日(土)

9:30～17:10 春季大会

17:30～19:30 懇親会

会場：大阪市中央公会堂(中之島)大会議室(B1F)

大会長：高橋伯夫(関西医科大学 臨床検査医学)

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-3】Joint Meeting of the International and Eighth Chinese Innovative Teaching of Diagnosis and Standardization of Clinical Laboratory Diagnosis について

中国、吉林大学の孫栄武教授から第8回 Chinese Innovative Teaching of

Diagnosis and Standardization of Clinical Laboratory Diagnosis の Invitation Letter が送られてきました。期日は今年の8月5～10日で、場所は長春です。中国内から300人、国外から30人の参加を予定しているとのこと。演題の締め切りは6月30日で参加費は150米ドルです。

(獨協医科大学越谷病院臨床検査部 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-4】平成17年 第一回常任幹事会議事録

日 時：平成17年1月14日(金)、13:00～15:00

場 所：日本臨床検査医学会事務所

参加幹事：森 三樹雄会長、神辺眞之副会長、吉田 浩副会長、石 和久常任幹事、
玉井誠一常任幹事、橋詰直孝常任幹事、池田 齋常任幹事、
谷直人常任幹事、伊藤喜久幹事、荏原順一幹事、木村 聡幹事、
満田年宏幹事、諏訪部 章幹事、村上正巳幹事、北村 聖幹事、
尾崎由基男幹事、小野順子幹事、渡辺清明幹事、土屋達行常任幹事

参加監事：中原一彦監事、高木 康監事

森三樹雄会長、議事録署名人に、吉田浩副会長、池田齋幹事を指名して議事に入った。

報告事項

1．新事務所に移転する件について

東京都千代田区神田駿河台1-8-13 駿河台日本大学病院 臨床検査医学科内から、
東京都千代田区神田駿河台2-1-19 アルベルゴ御茶ノ水505号室へ移転する。
移転日は、賃貸契約後の引き渡し日の平成16年11月8日とした。

2．各種委員会報告・審議

(1) 情報・出版委員会(石 和久委員長)

昨年のはりは下記の通りである。

JACLaP NEWS No.75～No.79、JACLaP WIRE No.66～No.76

Lab CP 22巻1号、22巻2号

Lab CP 23巻1号のテーマと執筆者について承認された。

JACLaP NEWSの新規収載項目が昨年4月以降発行されておらず、会員から発行を継続するよう強く要望している旨、石委員長より報告された。担当の渡辺清明先生より多忙のため発行されていないが、宮沢先生と相談の上、早急に対応したいとの回答があった。Q&Aについては、今年以降は伊藤喜久先生が担当することになった。会員の専門性をチェックして依頼できるようにする。

日本衛生検査所協会の「ラボ」掲載についての案が承認された。

(2) 教育・研修委員会 (玉井誠一委員長)

後日報告の予定

(3) 資格審査・会則改定委員会 (橋詰直孝委員長)

特になし。Nutrition Supporting Team についての現状についての報告がされた。

(4) 渉外委員会 (池田 斉委員長)

平成 17 年 7 月 22 日(金)に振興会セミナーを東京ガーデンパレスで開催する。

演題、演者は未定。

(5) 未来ビジョン委員会 (谷直人委員長)

名称：クリニカルインディケータ (臨床評価指標) 検討 WG

メンバー： 船渡忠男、桑島実、深津俊明 (: チーフ)

目的とするプロダクト：

臨床検査および病院医療評価機構における具体的、効果的な臨床指標を設定し、その評価について検討し、本会に提言していく。

作業完了予定期日：平成 18 年 3 月 30 日(平成 17 年度内のプロダクト作成が目標)

活動計画の骨子：

1. 臨床検査におけるクリニカルインディケータ(臨床評価指標)案を作成
そのため国内外の調査を行い、医療評価機構との関連性の観点から起案
2. 検査医会および臨床検査医学会への提言
3. 会議は大阪 5 回(うち 1 回は春季大会時)、福岡 1 回(総会時)の計 6 回行う
必要経費の見積り：会議旅費(学術集会以外の大阪での会議 4 回分)

¥20,000 × 3 名 × 4 回 = ¥240,000

現在、常任幹事会の了解をいただき、作業にかかっている。

北村 聖 幹事よりテーマについて病院医療評価機構に報告する必要がないとの指摘があり、テーマより「病院医療評価機構」を削除することになった。

(6) 臨床検査振興協議会報告 (渡辺清明幹事より報告)

広く臨床検査の重要性の理解を求め、広報活動を行う準備など活動を開始している。日本臨床検査専門医会は日本臨床検査医学会と共同で行うことになる。

(7) 第 15 回日本臨床検査専門医会春季大会 (大阪) について

4 月 9 日に行うが細部については検討中との報告があった。

(8) 第 16 回日本臨床検査専門医会春季大会 (前橋)

平成 18 年 4 月 8 日、9 日に前橋テルサで開催を予定しているが、当日は自動化学会と重なるために変更予定である。

(9) トルコで5月26日～5月30日まで WASPaLM 会議が開催されるので参加をお願いしたい。

審議事項

1. 平成 16 年度決算報告（土屋庶務・会計幹事）
監事より適切に運営されていると報告され、決算報告は報告通り了承された。
振り込み費用がかからないような振り込み方法を検討することになった。
2. 平成 17 年度年間行事予定について
3月4日の常任幹事会は18日に変更をすることが決定された。
3. 本年度日本臨床検査専門医会講演会について
神辺眞之副会長に企画、司会をお願いする。
4. 来年度の会長選挙について
選挙管理委員会を設置して選挙実施を行う。委員長は玉井誠一幹事を任命する。
玉井誠一委員長から池田 斉常任幹事に実行委員長を依頼すると報告があった。

===== JACLaP WIRE =====

【Q & A】

(Q) 輸血検査におけるゲルカラム法にて「間接抗グロブリン法での血球洗浄操作不要」とありますがなぜ不要なのか原理を教えてください。(大分県 臨床検査技師 経験3年)

(A) 試験管法における間接抗グロブリン法での洗浄操作の目的は、血球に結合しなかった血清あるいは血漿中の免疫グロブリン成分を取り除くことです。これは、クームス血清が中和されて偽陰性と判定されてしまうことを防ぐためです。通常、生食で3回程度洗浄操作を行い、血清あるいは血漿中の未反応の免疫グロブリン成分を除去します。

一方、ゲルやガラスビーズを用いたゲルカラム凝集法あるいはビーズカラム凝集法では、比重勾配分離法によって洗浄操作を不要としています。比重勾配分離法は、ゲルカラム凝集法あるいはビーズカラム凝集法でも原理は同様であり、一般的な方法として説明致します。

カラムの中は抗グロブリン血清溶液で充填されていますが、その比重は血清と血球の中間付近(中間比重)に調製されています。判定する場合、緩やかな遠心を行うことにより抗グロブリン血清と血球・血清・LISS液の混合溶液を重層します。更なる遠心過程において血球成分は重層された比重の異なる2液の界面の下に沈み、未結合の免疫グロブリンを含む血清成分は界面の上層部に分離されるため抗グロブリン血清溶液中に入り込むことができません。試験管法での洗浄操作と同様な効果が得られる

わけです。これが比重勾配分離法といわれる原理です。

比重勾配分離法の注意点は、メーカーが指定する適切な遠心力（g）で遠心を行うこと、指定された LISS 溶液以外を使用しないこと、血漿蛋白異常や血球比重の軽い貧血患者などで比重のバランスが崩れることによる異常反応などです。

【参考文献】

- 1) K. J. Reis et al.: Column agglutination technology: the antiglobulin test, Transfusion, 1993, 33, 639-643
- 2) Ortho-Clinical Diagnostics Inc.: Scientific monographs, 1993, Volume 1, October,
- 3) 小黒博之：ゲルカラム凝集法を用いた輸血検査の自動化．検査と技術 32．1439-1446, 2004.
(獨協医科大学越谷病院臨床検査部 森 三樹雄、柴崎 光衛)

===== JACLaP WIRE =====

【Q & A】

(Q) 尿沈渣における卵円形脂肪体と脂肪顆粒細胞の違いについて教えてください。
(大分県 臨床検査技師 22年)

(A) 日本臨床検査標準協議会 JCCLS による尿沈渣検査法指針提案 GP1-P3、(2000)によると卵円形脂肪体 (oval fat body) とは以下のように記載されている

「尿細管上皮細胞由来の脂肪顆粒細胞を特に卵円形脂肪体として区別している。本細胞はとくに重症ネフローゼ症候群患者尿に高率に認められ、有用な検査情報の一つに含まれている。ほかに重篤な糖尿病性腎症、Fabry 病、Alport 症候群などの患者尿にも出現する。」

つまり脂肪顆粒を多く有する細胞 (脂肪顆粒細胞) の中で尿細管上皮細胞由来と判断されるものを卵円形脂肪体としているわけだが、実際は形態学的所見では尿細管上皮細胞由来と判断できない場合も多い。一般的には尿蛋白陽性例について卵円形脂肪体としているものと思われる。

現在の尿沈渣検査法指針提案 GP1-P3 では脂肪顆粒細胞という分類はない。尿細管上皮細胞由来と判断できるものが卵円形脂肪体で、判断できない場合は分類不能細胞ということになる。ただ分類不能細胞というだけではどのような細胞であるのか情報として伝えることはできないので、必ずその成分についてのコメントを付記する必要がある。そこで脂肪顆粒を多く有する分類不能細胞については、そのコメントとして「脂肪顆粒細胞」という用語を用いることがあると理解してほしい。

しかし JCCLS の指針とは別に近年、卵円形脂肪体の由来について種々の意見が報告されている。1998 年堀田ら (文献 1) (文献 2) はモノクロ - ナル抗体を用いて卵円形脂肪体様成分 (組織学的な由来の不明な脂肪顆粒を伴った尿中成分) を染色し検討した結果、上皮細胞の形質を示さないで大食細胞 (マクロファ - ジ) の形質を有するものがあると報告した。2000 年川辺ら (文献 3) も同様の検討を行い孤立散在性に

出現している卵円形脂肪体様成分は CD68 陽性、サイトケラチン陰性、EMA 陰性所見よりこれらは大食細胞の形質を有すると報告した。一方、細胞集団として出現した卵円形脂肪体様成分は CD68 陰性、サイトケラチン陽性所見よりこれらは上皮細胞の形質を有するとも報告し、起源には大食細胞と尿管上皮細胞の 2 通りがあるとした。現在、これらの報告も含めて日本臨床検査標準協議会 JCCLS 尿沈渣検査法検討委員会では、GP1-P3 の改訂作業を進めており、今後卵円形脂肪体の取り扱い指針に変更があることも予想される。(文献 4)

1) 堀田 修 : 尿中脂肪球および卵円形脂肪体の鑑別法と臨床的意義、検査と技術 26 : 441-446 . 1998

2) 堀田 修、北村 洋 : 尿沈渣成分の卵円形脂肪体と粘液糸、検査と技術 26 : 704-707 . 1998

3) 川辺明昭 他 : 卵円形脂肪体の細胞起源と出現機序 第 1 報、第 2 報、医学検査 49 : 1282-1292 . 2000

4) 油野友二、伊藤機一 : 我が国における尿沈渣検査の現状と課題 - 卵円形脂肪体の意義と鑑別時のも問題点 - 、Nephrology Frontier 3:300-303,2004

(神奈川県立保健福祉大学 伊藤 機一)

(金沢赤十字病院 油野 友二)

===== JACLaP WIRE =====

【WHO トピックス-1】津波災害を受けた東南アジアに対し WHO は病気の流行を防ぐため 660 万米ドルの必要性をアピール

< Press January 2005 WHO-181 >

WHO は津波災害を受けた東南アジアに対し、病気の流行を防ぐため 660 万米ドルを必要としている。今回の津波では、水由来の感染症の流行を防止することを最重要課題としている。WHO では 3 か月間に数百万錠の水浄化錠剤、基本的な医療材料を含む緊急セット 200 万人分、外科手術用具 1 万分、コレラや赤痢などの下痢性疾患患者の薬 15,000 人分を東南アジアの被災地に送付した。しかし、インドネシアのアチェ、スリランカの東南海岸では安全な飲料水が確保されておらず、水由来の感染症の流行が懸念されているが、現在までのところ感染症の流行は報告されていない。下痢性患者の症例は増加してきている。

(獨協医科大学越谷病院臨床検査部 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

【MTJ (The Medical & Test Journal) 1 月 11 日号から】

腫瘍マーカー検査で大倉久直氏 回数制限の緩和を一応評価

検査点数算定のうえで検査項目数のマルメと実施回数の縛りを受けている腫瘍マーカー検査が、制限回数を超えて行われた場合、患者の自己負担を認め保険診療との併用に道が開かれることを受け、日本分子腫瘍マーカー研究会の大倉久直代表幹事（茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター病院長）は1月5日、本紙の取材に対し、「現行の保険上の縛りがすべて医学的に適正というわけではない。検査回数制限の緩和は一応評価できるが、その代償として患者の自己負担となると、腫瘍マーカー検査に関する適切な指導が積み残される危険性がある」との懸念を表明した。

厚生省 新規保険収載を通知

厚生労働省保険局医療課は昨年12月28日付で、以下の2項目の臨床検査の保険適用について、各都道府県（保医発第1228002号）に通知した。今回保険収載された項目は、（1）免疫クロマト法による尿中肺炎球菌莢膜抗原（保険点数・200点、保険適用申請業者・アスカ純薬）（2）ELISA法による抗クラミジア・ニューモニエIgM抗体価精密測定（同・180点、同・日立化成工業）。保険適用は1月1日から。

日衛協・関東甲信越支部名刺交換会 検査業界・学会の団結に期待

日本衛生検査所協会・関東甲信越支部の新年名刺交換会が1月5日、都内で開かれ、宮哲正支部長（保健科学研究所社長）は「昨年は厳しい診療報酬改定と度重なる災害に見舞われた。今年は、検査業界、検査医学会が同じテーブルで議論できるようになることを期待したい」とあいさつした。

東ソー ノロウイルス検出用キット発売

東ソーは、RNAを迅速・高感度に検出するTRCシステムの専用試薬として、ノロウイルス検出試薬「TRC test Noro1」と「TRC test Noro2」を昨年12月24日から発売した。東ソーが開発したTRCシステムは、一定温度でRNAを増幅し、INAFプローブを用いて増幅したRNAをリアルタイムに検出するシステム。

ニプロ 世界最小の血糖自己測定器を発売

ニプロはこのほど、世界最小の血糖自己測定器「フリースタイル フラッシュ」を発売した。2002年に発売された先行機種「フリースタイル」が備える、世界最少の採

血量で患者の痛みを軽減するなどの機能に加え、さらに使いやすく開発された。

愛媛大学病院が「診療支援部」を発足

愛媛大学医学部附属病院は、この1月から診療支援部を本格的にスタートさせた。これまで診療支援部は、医学部附属病院と歯学部附属病院を統合した国立大学法人附属病院で設置されてきたが、医学部附属病院単独での設置は、同大学病院が初めて。

【MTJ (The Medical & Test Journal) 1月21日号から】

国病機構東京医療センター 4月からブランチラボ導入を決定

独立行政法人国立病院機構 東京医療センター（780床、平均在院日数16.3日、田中靖彦病院長）は、4月から臨床検査科の検体検査業務の一部を民間検査センターに請け負い委託（いわゆるブランチラボ）する方針を固めた。昨年の国立病院の独法化以降のブランチラボの導入は、国病機構 宇多野病院（京都府）、同埼玉病院（埼玉県）に続き、3施設目だが、全国の国病機構病院の中核病院の動きだけに医療関係者の関心は高い。

外保連、生体検査試案の改訂へ検討作業を進行

外科系学会社会保険委員会連合（出月康夫会長）は、次回（2006年度）診療報酬改定に向け手術報酬、生体検査報酬、処置報酬に関する外保連試案の改訂作業を進めている。なかでも生体検査報酬に関する外保連試案（生体検査委員長＝土器屋卓志・埼玉医科大学放射線腫瘍科教授）の改訂作業では、内科系学会社会保険連合との合同協議を行うための「外保連・内保連生体検査連絡協議会」の設置を実現した。

小崎日臨技会長 法改正案の国会通過は今春目指す

東京都臨床衛生検査技師会は1月13日、東京都内で新春交賀会・各賞受賞祝賀会を開いた。同新春交賀会で小崎繁昭日臨技会長は、国会に上程中の臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律の一部改正案について、今春の法案成立を目指したい考えを表明した。改正案は、i) 臨床検査技師は医師の「指示」の下に業務を行うこととする ii) 衛生検査技師を廃止する iii) 生理学的検査の規定を、現行の政令委任から省令委任と

すること が骨子になっている。

臨薬協 体外診断用医薬品集 2004 年度版を発売

日本臨床検査薬協会はこのほど、体外診断用医薬品集 2004 年度版 (CD-ROM) をまとめ、ダイヤモンドプロダクションから発売した。体外診断用医薬品をすべて網羅した最新の書籍付き CD-ROM。前年度版の約 4800 品目のうち、約 1000 品目が入れ替わった。また、前年度版の書籍の製品情報を新たに CD-ROM に添付、さらに利用しやすくした。

日本臨床検査同学院 緊急検査士は 7 月 17 日

日本臨床検査同学院はこのほど、今年の二級臨床検査士資格認定試験と緊急臨床検査士資格認定試験の日程を明らかにした。両試験ともに日本臨床検査医学会が制定している。今年の二級臨床検査士資格認定試験 (東日本は第 91 回、西日本は第 92 回) は 7 月 23、24 日に、緊急臨床検査士資格認定試験 (東日本は第 26 回、西日本は第 27 回) は 7 月 17 日に行われる予定。

=====

JACLaP WIRE, No. 79 (2005 年 2 月 2 日発行)

発行：日本臨床検査専門医会 [情報・出版委員会]

編集：JACLaP WIRE 編集室 編集主幹：満田年宏

TEL:045-787-2721 ・ FAX:045-786-0392

本 WIRE の記事購読(配信・停止)・広告等に関するお問い合わせ先：

E-mail : uys-com@umin.ac.jp

日本臨床検査専門医会事務局 (入会・退会) に関するお問い合わせ先：

senmon-i@jaclp.org

日本臨床検査専門医会ホームページ

<http://www.jaclap.org/>

JACLaP WIRE バックナンバー：

<http://www.jaclap.org/wire/index.html#TOP>

=====